

令和元年台風19号(10月12～13日)の 堤防破壊と浸水被害 (in東松山市)

開催日:2020年11月1日(日)

会 場:熊谷市市民活動支援センター

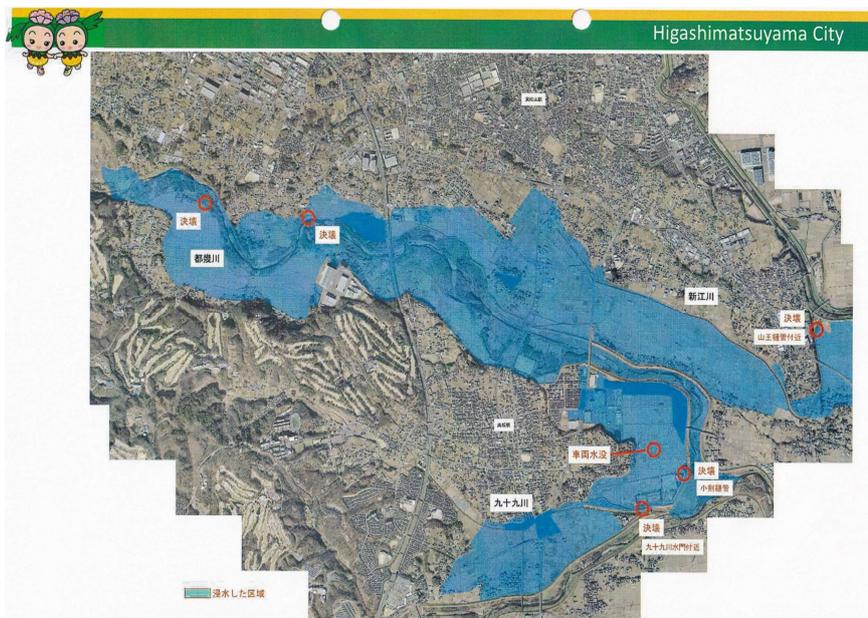
講 演:渡辺 仁 比企の川づくり協議会 代表

<https://hikinokawa.hikiws.com/>

(比企自然学校 会員)

<http://hikishizengakko.org/>

1



台風第19号による被害の状況 10月15日時点 (調査継続中)

2

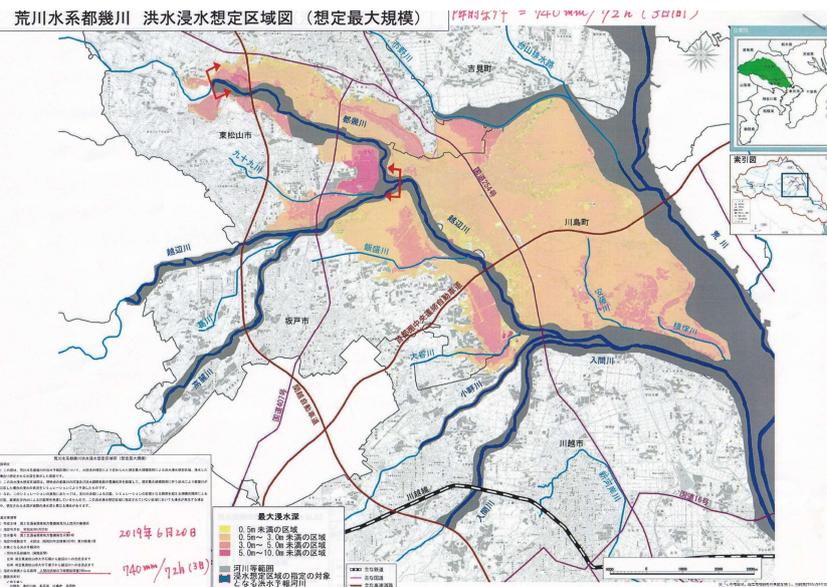
国・県管理区間
市役所取りまとめ

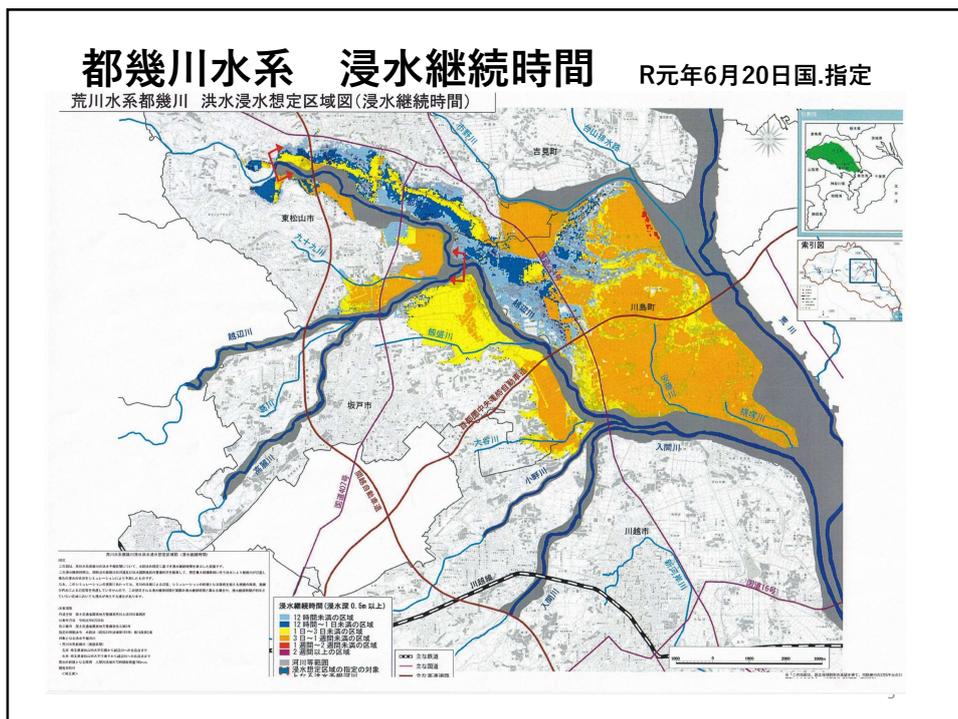
1. 台風19号による被害状況は？

令和元年台風第19号はどれほどの被害をもたらしたか



都幾川水系 ハザードマップ R元年6月20日国.指定





(国・県管理区間) 市役所取りまとめ

台風直後の様子(航空写真)

都幾川・九十九川・越辺川(早俣地区周辺)
国土交通省 10月13日撮影

都幾川(神戸大橋付近)
国土交通省 10月13日撮影

数字で見る令和元年台風第19号

避難所数	人的被害
最大26か所開設	死亡1人
避難所利用人数	軽症2人
3,239人	

※10月12日午後10時30分時点

住家被害(11月1日時点)	
全壊	78戸
大規模半壊	調査中
半壊	調査中
床上浸水	329戸
床下浸水	72戸

※一定の基準を基に損壊状況が全壊(50%以上)、大規模半壊(40%以上)、半壊(20%以上)

Ⅱ.越辺川・都幾川、堤防決壊箇所の洪水直後の状況



遠景：外秩父山系 笠山

（国道407号早俣橋で約4M浸水
車両水没にて 1名の死亡事故



○越入
印辺間
が川川
と小合
畔流
川のする
の氾濫
箇所では
なった
は？

一方、「下流の川越市」の越辺川堤防決壊で
洪水発生状況は如何に？



③早俣地区の堤防決壊地

○堤防が約90m決壊



④正代地先の堤防決壊

○堤防が約40m決壊



11

都幾川くらかけ清流の郷（市営公園） 越水と決壊（県管理区間）



右岸側のBBQ施設・藤棚等は、崩壊・流出した（約2Mの浸水）



著名な沈下橋には、約3Mの高さの流木群が積み上がった。

12

くらかけ清流の郷は、埼玉県と共同で実施した川のまるごと再生プロジェクトにより、川に親しめる場所として整備し、都幾川鞍掛橋周辺の緑豊かな自然の中で川遊びや手ぶらでBBQを楽しめる公園。



右岸側のBBQ施設・藤棚等は、崩壊・流出した（約2Mの浸水）



左岸側の立て看等は、一部分を残し流出した。飛び石は埋没（約3M）

13

①都幾川左岸堤防決壊・越流（南中学校付近） （国管理区間）



左岸側の南中学校と周辺水田に、越流した洪水流。（10月13日以降）



矢来堰（かごマットの堰）は一部分を残し崩壊。右岸低水護岸も破壊。

14

Ⅲ.市民ボランティアによる、 ③早侯地区被害地復旧活動



早侯地区の災害ゴミを撤収するために、市民ボランティアが結集。復旧作業には、軽トラが大活躍する現場となった。
(比企自然学校 会員)

15

③早侯地区 浸水被災住宅の災害ゴミ収集 (比企自然学校 会員)



- ・ 浸水被災宅から発生した、ゴミ・被災家具等の軽トラ搬出(ボランティア)

16

活躍する軽トラックと、搬出の混雑ラッシュ

(比企自然学校 会員) 11月～R.2年1月



- ・ ゴミ・被災家具等を満載した軽トラ(ボランティア)の運送ラッシュが、永らく続いた。

17

国、県、市による、懸命の復旧作業



国) ③都幾川右岸
小剣神社樋管直下



国) ④九十九川水門
上流部決壊箇所



国)、県) 農林振興センター
矢来堰・魚道計画箇所

18

IV.第19回河川見学会（緊急）・水害シンポなど

R2年2月22日



国) 荒川上流河川事務所より、被害状況・復旧工事・緊急治水対策PROJ.



国) 都幾川右岸堤防決壊地点③で、治水対策推進室長よりPROJ.の説明。

19



県) 東松山県土整備事務所より、被害状況②⑤・復旧工事の現状説明。



市) 東松山市商工観光課より、被害状況（清流の郷）と復旧営業開始の説明

20

市民主催の水害シンポジウムと講演会開催

会場：東松山市唐子コミュニティセンター R2年2月22日



1. 「治水計画の歴史と今後（基調講演）」・・・ 中井正則氏 電機大学教授
（総合治水計画を中心に）
2. 「10.12水害と入間川流域の魚道被害報告」 NPO荒川流域ネットワーク
・・・ 鈴木勝行氏 代表理事
3. 「温暖化・生態の変化・ダム土砂堆積」・・・ 斉藤裕也氏 魚類専門家

21

埼玉県「川の再生交流会」のポスターセッションにて、水害復旧支援活動等を発表

R2年2月1日（inさいたま市民会館うらわ）



比企自然学校会員による
支援活動のポスター発表

「川と水害」分科会で、意見交換
・自助、共助、公助のあり方？
・正常性バイアス（偏向性）？

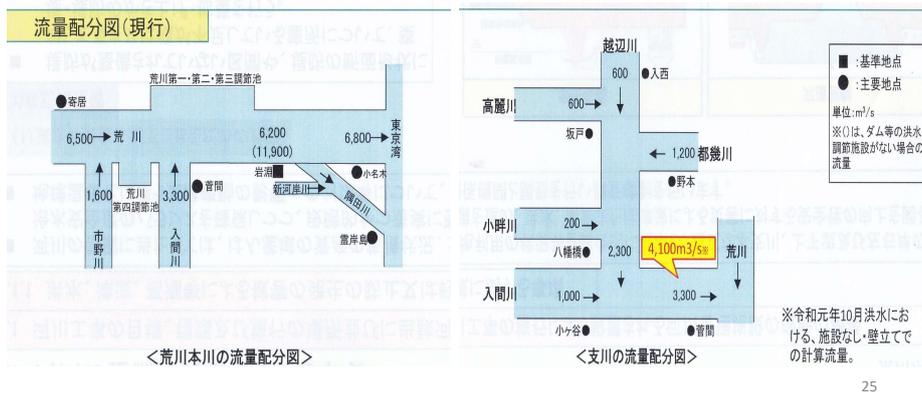


22

国)の計画流量配分(本川と支川の今後は?)

本線:S22年カスリーン台風での目標流量は11,900m³/sとして、河道内では6,200 m³/sを安全流下させる(変更ナシ...基準点岩淵)。

支川:R1年19号台風被害の基づき、菅間堰での流量目標を4,100 m³/sに大幅改良・変更して、災害発生防止・軽減を図る(入間川)。



その他、市内の「共助」協定の一例として

(ハザードマップの避難地ご提供として R2年9月)



高台の崖っぷちに建立した宗教法人「真光之会」神殿と「近隣市民の会」で、災害時一時避難場所協定を締結

『車両約120台、収容人数300人』

神殿の眼下に広がる、東松山市の市野川水系洪水浸水想定区域(降雨条件819mm/48hr) ⇒ 浸水深0.3m~3m~5m)

五領町・六軒町・新宿町・山崎町・御茶山町など、近隣市民は約1.5万人。(遠方は、吉見百穴・松山城跡等)



コロナ禍後に、遅遅としながら（市管理の） 都幾川「くらかけ清流の郷」の復旧は？



R1年5月の人混み『過密』が、



R2年6月の人混みは、
ソーシャルディスタンスで、



R2年8月の人混みは「密回避」で



BBQ 6人掛テーブルは3人掛けて

27

おわり

ご静聴、有り難う
ございました。

[背景：都幾川くらかけ清流の郷]

28